

両沼地方稲作情報 号外

令和5年9月1日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所
" 金山普及所

(電話0242-83-2112)
(電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区



QRコード

会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

「両沼」+「稲作情報」で検索！

7月下旬からの高温により・・・

刈取適期が7日程度早まる可能性があります！

1 刈取適期が7日程度早まる根拠

根拠① 出穂期が早まった

6月以降は気温・日照共に安定して推移し、7月下旬からは高温・多照となったことで、「コシヒカリ」と「ひとめぼれ」の出穂期は平年よりも2～3日程度早まりました。

表1：作柄概況調査ほ場の出穂期

ほ場	出穂期 (R5)	出穂期 (平年)	差
コシヒカリ 会津坂下町	8/5	8/8	-3
ひとめぼれ 湯川村	7/31	8/2	-2

根拠② 積算気温が進んでいる

7月下旬からの高温により、出穂からの積算気温の増加が平年よりも5日程度早く進んでいます。また、高温・多照時は、積算気温に基づく刈取適期から更に数日早まる可能性があります。

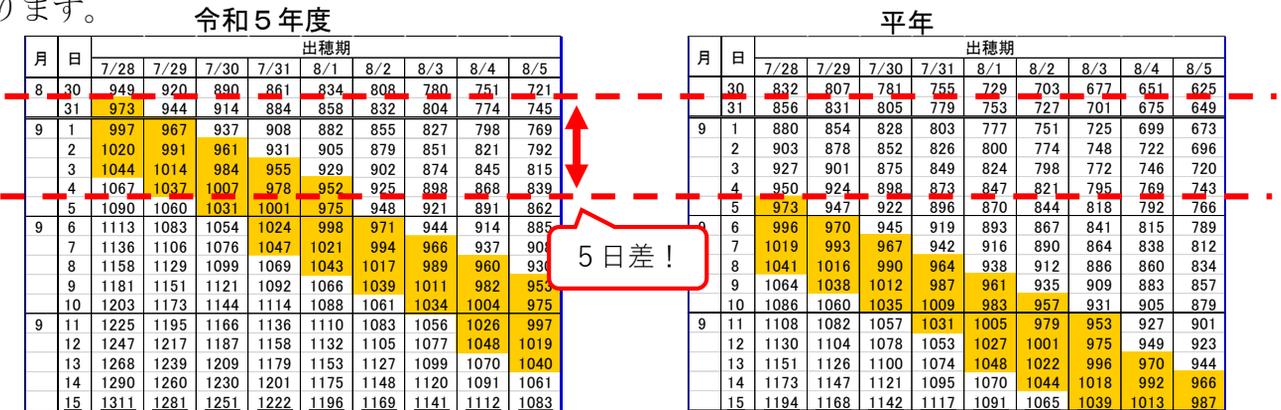


図1：出穂後の積算気温表の比較

今年の積算気温（左側）は、平年平均による積算気温（右側）よりも5日分早く進んでいる。

上記の理由により、理論上は刈取適期が平年よりも7日程度早まる見込みになります。

しかし、品種や栽培方法、ほ場条件によって、生育に差が生じるため、実際にほ場を見ると、平年より7日程度早いほ場もあれば、平年よりも2～3日程度しか早まっていないほ場、平年並のほ場も見られます。「平年よりも7日早いかもしれない」を意識し、最終的には「籾の黄化率」を直接確認して刈取時期を判断しましょう。

2 刈取適期判断の流れ

- ・刈取り時期の目安は、おおむね出穂40～45日後で、出穂後の積算気温が950～1050℃に達し、籾の黄化率が80～90%になった時期です。



図2：ひとめぼれのほ場と籾の黄化状況（8/29時点）

図1のほ場をモデルに、刈取適期を判定します。

(1) 出穂後日数による判定

このほ場の出穂期は8/2頃であり、出穂40～45日後は、9/12～9/16頃となる。

(2) 積算気温による判定

このほ場の出穂後の積算気温950～1050℃に達するのは、9/6～9/9頃となり、出穂後日数の判定よりも7日程度早い。

(3) ほ場の外観及び籾の黄化率による判定

ほ場外観では黄化が進んで見えるが、実際に穂を確認すると、まだ60～70%程度であり、刈取適期まで少なくとも2週間程度かかると思われる（刈取適期は9/12以降）。ただし、急速に籾の黄化や乾燥が進むこともあるため、数日おきに状況確認が必要である（落水後は特に注意！）。

穂①、②、③の籾の黄化率は60～70%程度であり、このほ場で多く見られる状態である。一方で、穂④は黄化率90%と成熟が進んでおり、穂⑤は黄化率50%未満である。ほ場内部でも黄化率にばらつきがあるため、中庸なサンプルを選定する（畦畔際は登熟が早く、水口付近は登熟が遅い傾向がある）。

3 刈り遅れによる胴割れ等発生に注意！

- ・刈取適期が早まるほ場では、刈り遅れによる胴割れ増加に注意が必要です。

- ・特に、稲体が消耗し、枯れ上がっている、もしくは土壌が乾燥し、土壌水分が著しく少ない場合は、籾の乾燥が進みやすく、胴割れ発生が助長されます。

高温や渇水の影響が大きいほ場では、特に刈り遅れに特に注意しましょう。

- ・また、福島県オリジナル品種である「里山のつぶ」は、穂発芽が発生しやすいため、刈り遅れには特に注意しましょう。

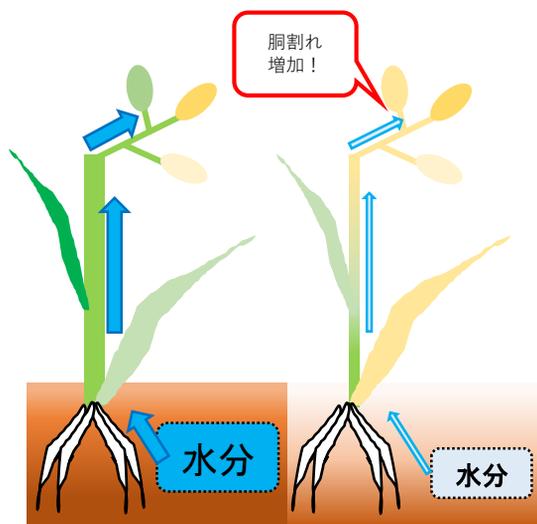


図4：登熟期における稲体の水分吸収

稲体に活力があり、土壌が十分に湿っていれば、籾の水分減少は緩やかに進む（左図）。一方で、乾燥や栄養凋落で稲体が枯れ上がり、土壌水分が少ないほ場では、籾の乾燥は急速に進む（右図）。



図3：高温・乾燥の影響（8/31撮影）

高温・乾燥により、ほ場の白乾や、稲の葉先の枯れ上がりが見られる。